

Takaoka Bunka Summit project

高岡文化サミット

by Geibun

富山大学芸術文化学部 × 高岡市 連携事業

開催主旨

ブロードバンドを基盤とする情報化社会の実現によって、ネットワーク上で流通する文化のスタンダード化がアメリカを中心に加速する一方で、特徴ある地域文化を守ろうとする動きも世界中で活発化している。それは、いたづらなスタンダード化で地域の文化基盤が空洞化することを憂慮するという理由だけでなく、多様な文化の差異の吸収にこそ真の地球文化の形成の可能性がある、という視点がヨーロッパを中心に生まれてきたからである。今回、「高岡文化サミット」では日本の伝統文化の原型を守ってきた越中高岡の地で、伝統芸能である雅楽とコンテンポラリーダンスとのコラボレーションを通じて、伝統文化の進化の可能性を探りながら、ヨーロッパ各国の事例を直接的な証言を受けて地域文化の世界的な発信を議論していく。

1日目の内容

開催日 平成 18 年 10 月 7 日 (土)

会場 高岡市民会館

内容 「高岡文化サミット by Geibun」

●童舞公演「迦陵頻(かりょうびん)」

洋遊会が1年前から取り組んできた童舞の初演

出演：洋遊会(舞人：千鳥丘小学校児童)

●時空を超えたコラボレーション

「響(ひびき) The hallway echoed with his footsteps」

コンテンポラリーダンスと雅楽

出演：ダンスカンパニーノマド～s・洋遊会

ダンスカンパニーノマド～s

●国際文化フォーラム「地域文化と世界」

「万葉集」や「雅楽」などの関わりを含め、凝縮された日本文化を地域文化として持つ高岡。地域文化の発信のあるべき姿を国際的なパネリストを迎え、考えました。

<パネリスト>

上野景文(駐パチカン大使)

ギジェルモ・キルクパトリック(スペイン大使館文化担当参事官)

橘慶一郎(高岡市長)

前田一樹(富山大学芸術文化学部学部長)

<コーディネーター>

伊東順二(富山大学芸術文化学部教授)



| | |
|----|--|
| 主催 | 財団法人高岡市民文化振興事業団 国立大学法人富山大学芸術文化学部 高岡市 |
| 共催 | 北日本新聞社 NHK 富山放送局 北日本放送 高岡ケーブルネットワーク |
| 後援 | 高岡市芸術文化団体協議会 福岡町芸術文化協会 |
| 協力 | 高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」 |

2日目の内容

開催日 平成 18 年 10 月 8 日 (日)

会場 高岡市民会館

内容 「万葉と舞楽の世界」

～みなぎる天平のリズムと色彩～

宮内庁式部職楽部楽師を中心に結成する雅楽演奏団体の最高峰「東京楽所」と高岡市福岡町の「洋遊会」による華麗なる舞楽の真髄に迫ります。雅楽や万葉を楽しく紹介しながら皆様をいにしへの雅な世界へと誘います。

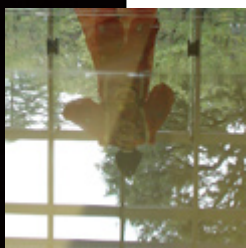
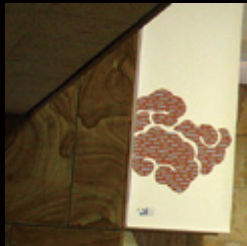
出演 東京楽所・洋遊会

曲目 陪臚(ばいろ)

人長舞(にんじょうのまい)

其駒(そのこま)、狛杵(こまほこ)

蘭陵王(りょうらんおう)



<空間構成>

2日に渡り富山大学芸術化学部による光の花道が広場とホールを結びました。

ダンスカンパニーノマド～s

1992年より、池宮中夫、熊谷乃理子を中心に国内はもとより、ギリシャ、ドイツ、オーストリア、フランス、イギリス、ハンガリーなど、ヨーロッパを中心に海外公演も積極的に展開。近年では2005年3月「Gesicht und Geschichte 顔と歴史—ひとつの小さな夜—」を横浜赤レンガ倉庫一号館ホール（横浜ダンスコレクションR参加事業）にて発表。同年4～5月ドイツ、フィンランド公演。2006年5月～6月同作品での東欧、ドイツツアーは好評を博す。

GESCHICHTE on THE BLOG <http://blog.goo.ne.jp/nomade-s>

東京楽所／代表：多 忠輝

1970年代、宮内庁式部職楽部楽師によって結成された紫絃会を前身として、1973年、宮内庁式部職楽部のメンバーを主体に累代の楽人に併せて、民間の優秀な雅楽奏者も含めて創設。芸術音楽としての雅楽演奏を目的として結成された、現在わが国最大規模の高い芸術性を有する雅楽団体。

国立劇場をはじめ国内の多くの公演に参加。また、海外では1983年、外務省の招請により文化使節年としてヨーロッパ各地で公演、1986年、エジプト・カイロ公演、1987年、米国において日本伝統使節団に参加。近年では2005年、日本EU友好年において、1月ドイツ・ベルリン公演、12月イギリス・ロンドン公演など、世界的な活動を展開。2002年キングレコードより発売された「御遊」「御慶」の2枚のCDを含め、現在までに十数枚のCDを出版。また外国版CDの制作も手掛けており、雅楽の世界的普及にも努めている。

洋遊会（高岡市福岡町）／会長：上野 慶夫

今年で145年の歴史を持つ、高岡市福岡町の雅楽団体。

北陸では、江戸時代後期から民間でも雅楽が親しまれたと言われていた。洋遊会の前身が結成されたのは、文久元年（1861）のことで、福岡町の雅楽愛好家たちが、「暢日連」という同好会を結成した。

明治11年（1878）、明治天皇は岩倉具視、大隈重信らを伴い北陸地方をご巡幸され、福岡町にも立ち寄られた。その際、暢日連はご休息所でご常楽、越天楽を演奏し、一行を大変喜ばせ、この時使用を許された菊のご紋章つきの幟が現在も保存されている。その後、宮内省の楽師を招いて、直接指導を受けるようになった。

大正8年（1919）に宮内省の東儀俊義師の命名により会名を「洋遊会」と改めた。さらに当時の会長、川島静哉の尽力により、舞楽面、装束、楽器、古楽書、楽譜等を収集し、数々の楽曲、舞を習得した。全国的にも珍しい、本格的な舞楽を行える民間雅楽団体として、祇園社、本願寺など京都の社寺に招かれ活躍を続けた。

戦後は福岡町無形文化財に指定され、毎年定期公演等を行い、平成12年（2000）の英国ヨークシャー公演は大好評を博してBBCテレビで絶賛された。

昨年の合併により現在は万葉のまち、高岡市の無形文化財として新たな活躍が期待されている。